令和７年度　特別の教育課程（立川市民科）の実施状況等について

1　学校名　　立川市立　若葉台小　学校

2　令和７年度　学校における自己評価（箇条書きでご記入ください。）

立川市民科の取組の効果	・学校から地域、市と学年に応じて、課題について調べたり発表したりする活動を通して、立川市民としての意識を高めることができた。 ・地域行事や立川市の行事等について、調べたり参加したりすることで、よりよい地域にすることの大切さや、地域への参加意識を高めることができた。 ・地域について調べたり、インタビューしたり、まとめたりしたことを地域の方や保護者に発表すること、市民としてのつながりを高めることができた。 ・立川市民科って何？という声が子どもたちや保護者から、毎年減ってきている。市民科が浸透し、理解されてきている。
立川市民科の取組の課題	・地域の方や施設に、ゲストティーチャーなどを依頼するときの、連絡調整など教員の負担が増えている。人材バンクの活用や、前年度の基本的な活動を引き継ぐことなどの工夫が必要である。 ・毎年他市から異動した教員が、立川市民科について理解するのに時間を要している。OJT や学年会で年度当初理解する時間を設けているが、さらに工夫が必要である。

3　令和７年度　学校評価に係る共通項目のうち

（１）対象：児童・生徒

項目：⑩立川市民科では、自分で立てた課題について、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現することができた。

（割合）

そう思う	概ねそう思う	あまりそう思わない	思わない	わからない
36.4%	43.4%	9.3%	3.2%	7.7%

（２）対象：保護者

項目：⑪立川市民科では、探究的な学びの実現に向けて組織的に取り組んでいる。

（割合）

そう思う	概ねそう思う	あまりそう思わない	思わない	わからない
33.9%	52.5%	1.7%	0%	11/9%